

相談支援が
目指すもの

発達障害児者が地域の中で自立して暮らす力を身につける

→ **くらす力・はたらく力・たのしむ力**（思春期・青年期に獲得したい3つの力）
生活支援 就労移行支援 余暇支援

*1 親や家族の不安 → 一人暮らし、親亡き後の生活
 → **親や家族の集いの場**
 不安軽減・情報収集・将来の見通し・特性理解・障害受容

相互補完

現状

くらす力

- ・知的な遅れがなくても生活スキルが不十分
- ・現行の評価尺度では支援対象外

はたらく力

- ・仕事より対人面やコミュニケーションが心配
- ・できないことばかりで得意分野を活かす機会がない
- ・能力や適性と本人の希望が合致しない場合の対応に苦慮

たのしむ力

- ・同世代の“仲間”が作れない
- ・身近な地域に居場所がない
- ・“余暇の過ごし方”が分からない

↓

*2 **本人の集いの場**
 安心できる環境・趣味を介したコミュニケーション・余暇モデル体験・自信回復・自己理解・障害受容

発達特性

個々の作業スキルはあるのに組み合わせるとできない
 習得した知識や技能の応用や汎化が難しい
 得意なことと不得意なことの差が著しい

社会的背景

“発達障害”の社会的認知の広がり
 主訴やニーズの多様化(確定診断に至らないグレーゾーンの相談の増加)
 養育環境の複雑化

今後益々必要とされるもの
 現在不足しているもの

アセスメント

- ・状態像の適切な見極め
- ・生活上の困難を測る評価尺度の検討

アプローチ

- ・柔軟な視点と発想の転換
- ・自己選択を促す提案
- ・能力より自己評価や充実感を重視
- ・長所や得意分野に焦点

社会資源

- ・身近な地域に集える場
- ・困ったとき親以外に頼れる相手

心のケア

- ・自己理解
- ・障害受容の促進
- ・自信回復

地域や職場等での普及啓発
高度な専門性を持つ人材の育成 (生活全般を組み立てるコーディネーター、人生の節目節目で寄り添うサポーター)